

# 体育授業を行うことに対する小学校若手教師の意識に関する研究

## － 体育科に関する養成段階での学びに着目して－

小山 薫（東京学芸大学）

### 1. 目的

本研究の目的は、小学校若手教師の体育授業に対する意識とその形成要因を、養成段階においてどのような学びをしていたのか、特に養成段階で体育科を専門的に学んできた履歴をもつ教師とそうではない教師を比較検討しながら明らかにすることである。

### 2. 研究方法

- 1) 対象者：教職1年目から教職3年目までの小学校若手教師
- 2) 調査方法：まず、質問紙調査を通して体育授業に対する意識について整理し、次に、意識を形成する要因やきっかけを明らかにするためにインタビュー調査を行った。
- 3) 分析方法：質問紙調査では因子分析と記述分析、インタビュー調査では質問紙調査で明らかとなった意識、養成段階での体育科の学び、意識の形成要因に関連する語りに着目して分析を行った。

### 3. 結果と考察

#### 1) 質問紙調査の結果と考察

小学校若手教師は体育授業に対して「専門的知識」「教師行動」「教科の探究」「充実実感」「子どもへの関心」の5つの意識をもっていることが明らかとなった。「専門的知識」「教科の探究」「充実実感」では体育科を専門的に学んだ履歴をもつ教師の意識が有意に高いことが明らかとなった。これらをはじめとした結果から、養成段階で体育科を専門的に学ぶことが意識に影響を与えていると考えられた。

#### 2) インタビュー調査の結果と考察

小学校若手教師に共通している意識として、5つの意識は互いに影響し合っており、積極的な意識や意識の変化があった。その背景には子どもをはじめとした他者の存在があった(図1)。さらに、養成段階で体育科を専門的に学んだ教師の意識の背景には、体育科を専門的に学んだという自負を基盤とした軸

が存在していた。それは、体育授業に対する様々な意識に大きな影響を与えていると考えられる(図2)。

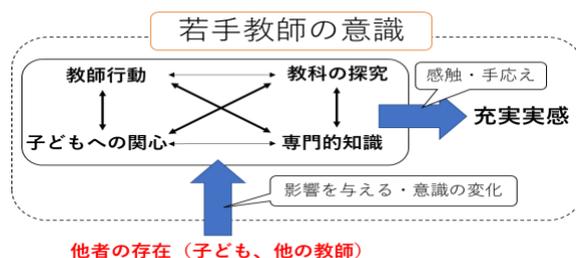


図1 若手教師の体育授業に対する意識の構造

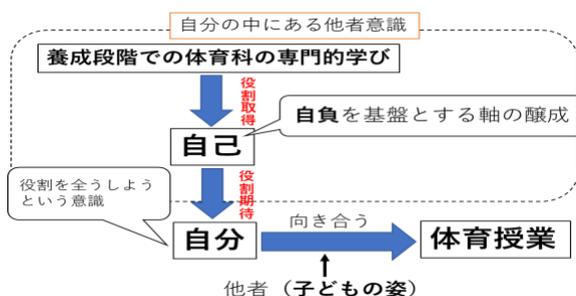


図2 体育科を専門的に学んだ履歴をもつ教師の意識の構造

### 4. 結論

小学校若手教師は体育授業に対して5つの意識をもっており、それらは影響し合っていること、そして意識の背景には他者の存在があることが明らかになった。体育科を専門的に学んだ履歴をもつ教師には自負を基盤とした軸が存在しており、養成段階での体育科の学びも意識に大きな影響を与えていることが示唆された。これらのことは養成段階で体育科を専門的に学ぶことの意味として捉えることができると考えられる。

### 5. 主な参考文献

- 1) 鈴木聡（2010）小学校教師の成長における体育科授業研究の機能に関する研究—体育科授業研究会に参加する小学校教師の意識調査を手がかりとして—, 体育科教育学研究, 26(2), pp. 1-16